

からだと思えます。自殺すること、苦しいことがあったり、悩みがあったりするからだと思えます。そういうふうな老人を苦しめていくのは私たちではないでしょうか。自分の祖父母を苦しめるより、今まで苦労しつづけてきた祖父母にうれいと思われたいことをしてきてください。そうすると、今まで話せなかったことも、次第に話せるようになるのではないのでしょうか。私は祖父母が体が弱ってきただけで、できる限り手伝いをし、祖父母を大切にしていきたいと思えます。

「チームワーク」

チームワークの大切なところは、一人ひとりが責任を持ってそれを果たすことにあります。一人でも欠けることがあれば、そのチームとしての本当の力は発揮できないと思います。先日、私の祖母が入院しました。祖母の留守だった一



美子真美さん (岩室中学校2年)

カ月間というものは、短いようで長く、改めて祖母の仕事がいかに重要か知らされました。(略) 私の家でこの一つの事件は、家族の中の一人でも欠けたら、家族としての本当の力は発揮できないこと。

また、そんな時こそ一致団結して力を出しあわなければならぬのだということも教えてくれました。このことは学校での部活でもいえることです。これからは、家でも部活でも本当の力が出せるようなチームワークを大切に、私もその中の一員として責任を持ち、精一ぱい自分のやれることを考え、力を合わせていこうと思えます。

「たった一度の今日と明日」



憲正くん (岩室中学校3年)

自分は何をするために生まれてきたんだろうと最近思うことがあります。人間、この世に生を受けたからには何か必ずすべきことがあるはずだ、という言葉に耳にした記憶があります。でも、それは本当でしょうか。本当にすべきことがある人間はごくわずかなのではないかと思います。(略) 人間にも「オレはこれをするために生まれてきたのだ」と思う日がかならずくるはずなのです。そのたった一度の今日という日に全力を尽くせたらその人の一生はきつと光り輝くすばらしいものになると思います。平凡な毎日だけど、いつかはその日がきます。自分の一生をありきたりのものにするか

満足なものにするかはそれまでの努力次第です。たった一度の今日という日を感じとり全力を尽くすことができたとき、自分は満足感あふれる笑顔を見ているんじゃないか、そんな気がします。

「これからの私」

三年前の私、今の私、すっごく変わったと思います。三年前より数段大きくなりました。もちろん見た目だけではありません。精神的にも、もっと深みが増してきたように思います。きつと、三年間の中学校生活で得た多くの人との出会いや感動が、私を大きくしてくれたのでしよう。(略)



美豊さん (岩室中学校3年)

これからの私、一つ一つの出会い、感動を大切に、心の年輪を大きくしていきたいと思えます。今はまだ人に感動を与えられる、あのおじいさんやおばあさんのようにはいきませんが、しかし、様々な出会い、感動を通して心の年輪が厚みと深みを増した時、私も、人に感動を与えることができる人間に成長していると思えます。三年前の私、今の私、すっごく変わりました。そして、どんどん大きく変わっていききたいこれからの私。

「これからの農業を考える」

私の家は、父と母の二人でやっている専業農家です。新聞やテレビでも報道していますが、多分米の輸入と減反の二つの問題が今の農家を苦しませているのではないのでしょうか。この問題が解決し



曉子さん (岩室中学校3年)

ないまま父が言っていた「お前たちの時代」、私や姉が働くころの時代が来たら、本当に農家だけでは食べていけないような気がしますが、農業は、田畑で米や野菜、果物などを作ったり家畜を飼ったりして、人間の生活に必要なものを生産する産業です。だから、農家というのは今はちよつと大変だけれど、人間生活に必要なものを作るのだから、将来は今以上に必要となる大切な職業だと私は思っています。だから、農業についてみんな考えてみなければならぬこと、もたくさんあるし、私自身も農家の子供として、もう少し農業について考えてみようかなと思っています。

「農業について」

我が家は、主に米を作っています



中村敬太郎くん (岩室中学校3年)

すが兼業農家です。米作りから農業を考えてみると、十年前から比べてだいぶ違います。ほとんど機械化された現代の農業は昔と比べると大変楽になり米作りにかかる日数も少なくなっています。しかし、これらの機械をそろえるために兼業をせざるを得ません。(略) 農家は、人間の主食である米を生産しています。しかし、その農家も減りつつあります。今のところはつきり言えませんが、僕の本音を言うと、将来、農業はしなないと思います。つらいからやらないのではありません。今のままのやり方では駄目だと思われ、両親の希望でもあるからです。昔の偉い人が「国の基本は農業だ」と言っていたように、政府ももっと農家のことを考えてもらいたいと思います。

今回ご紹介した内容は、発表者たちの原稿から内容を抜粋したものです。当日の発表内容は若干ちがっているところもあるかもしれませんがお許しください。でも、子供たちの鋭い視点と感性にはホント頭のさがる思いです。

種月寺本堂 (石瀨) 国重要文化財指定に答申される

みなさんもご存じの方が多いかと思いますが、さる七月二十一日、国の文化財保護審議会では建造物関係の重要文化財に新たに九件十六棟を指定するよう文部大臣に答申しました。そのなかに、石瀨種月寺本堂(棟札二枚)が答申されました。今後、文部大臣によって審査され、十月ころまでに指定されることとなります。これまで県内には、弥彦神社境内末社十柱神社社殿などが建造物の重要文化財(国指定)として指定されていますが、今回、答申された種月寺本堂は、二十六番目の指定となります。



今回重要文化財に答申された種月寺本堂(元禄12年=1699年建立)

豪壮な造り 曹洞禅道場

種月寺は、一四四六年(文安三年)守護上杉房朝の援助によって、道元の法流にある南英謙宗によって開山され、天神山城主、小国氏の外護を得て栄え、蒲原一帯の歴史と共に歩んできました。現在の建物は、一六九九年(元禄十二年)出雲崎大工、小黒甚七を棟梁として改築されました。桁行二十四メートル、梁間十八・四メートルの規模で、背面に文化十年に増設された開山堂があります。屋根は茅葺(鉄板仮葺)の奇棟造りであり、開山堂の棟札は、今年の五月、調査によって発見されました。県下の数多い曹洞宗寺院の中でも、建立年代が明らかでない最も古い建物であります。全体的に木柄が太く、規模も大きく、豪壮な建



四季折々にすばらしい趣を見せてくれる種月寺山道



装飾は控えめだがまとまりがよく気分を壮大してくれる本堂内

造物であり、そして、全体的にまとまりもよく、装飾も控えめで気分を壮大にしてくれます。禅宗寺院の特色を表わす八

間取の堂となっており、昭和六十一年三月、県の文化財にも指定されています。いま国レベルの重文の指定は村民の誇りであり、それだけに、わたしたちに文化財保護と認識、研鑽の資質をとおれることとなります。現在、村内には県の文化財指定として、枕状溶岩(天然記念物)、南英謙宗墨跡(種月寺蔵)がありますが、今後、みなさんも、これらの指定された物件が村内に存在することを誇りにするとともに、それらについて、もっと触れたり学んだりして、文化財保護に努めましょう。ところで、今年の生涯学習の講座で「多宝山脈の山野草」や「寺院庭園」について学ばれていますが、これらについても調査が進み、近い日に県の文化財に指定されることと思えます。